

6. 災害時の備え

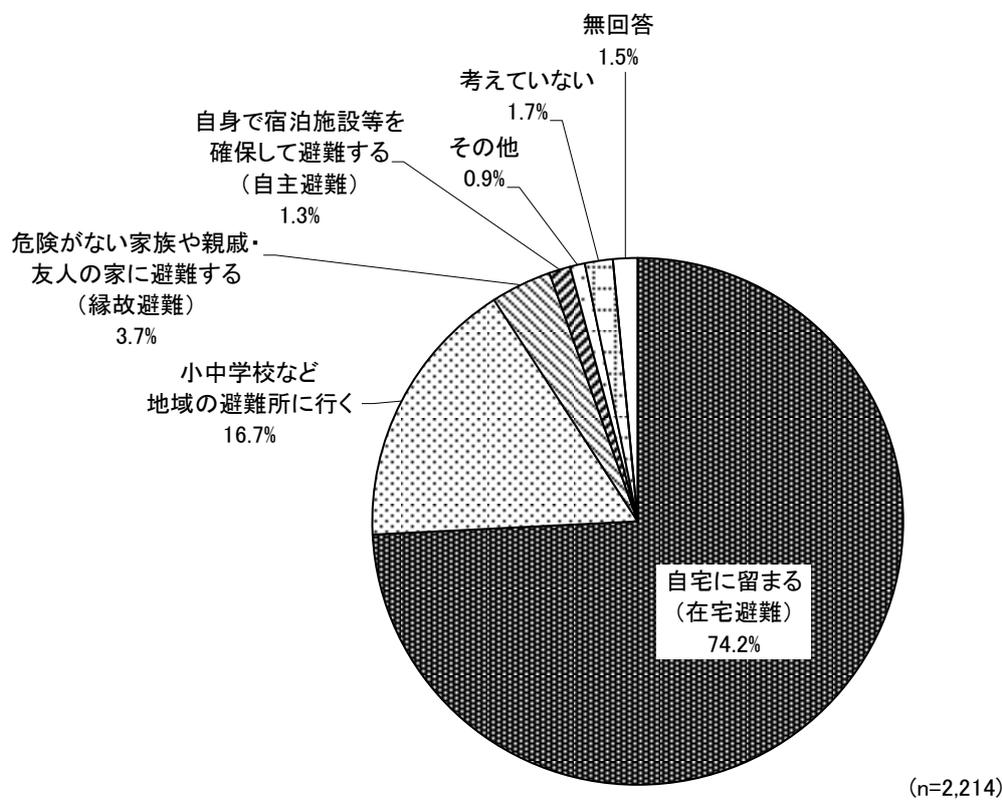
(1) 大地震の際の避難行動

◎「自宅に留まる（在宅避難）」が7割半ば

問18 あなたは震度6強（※）の大きな地震が発生し、自宅が無事で危険がない場合、どのような避難行動をとると思いますか。（○は1つ）

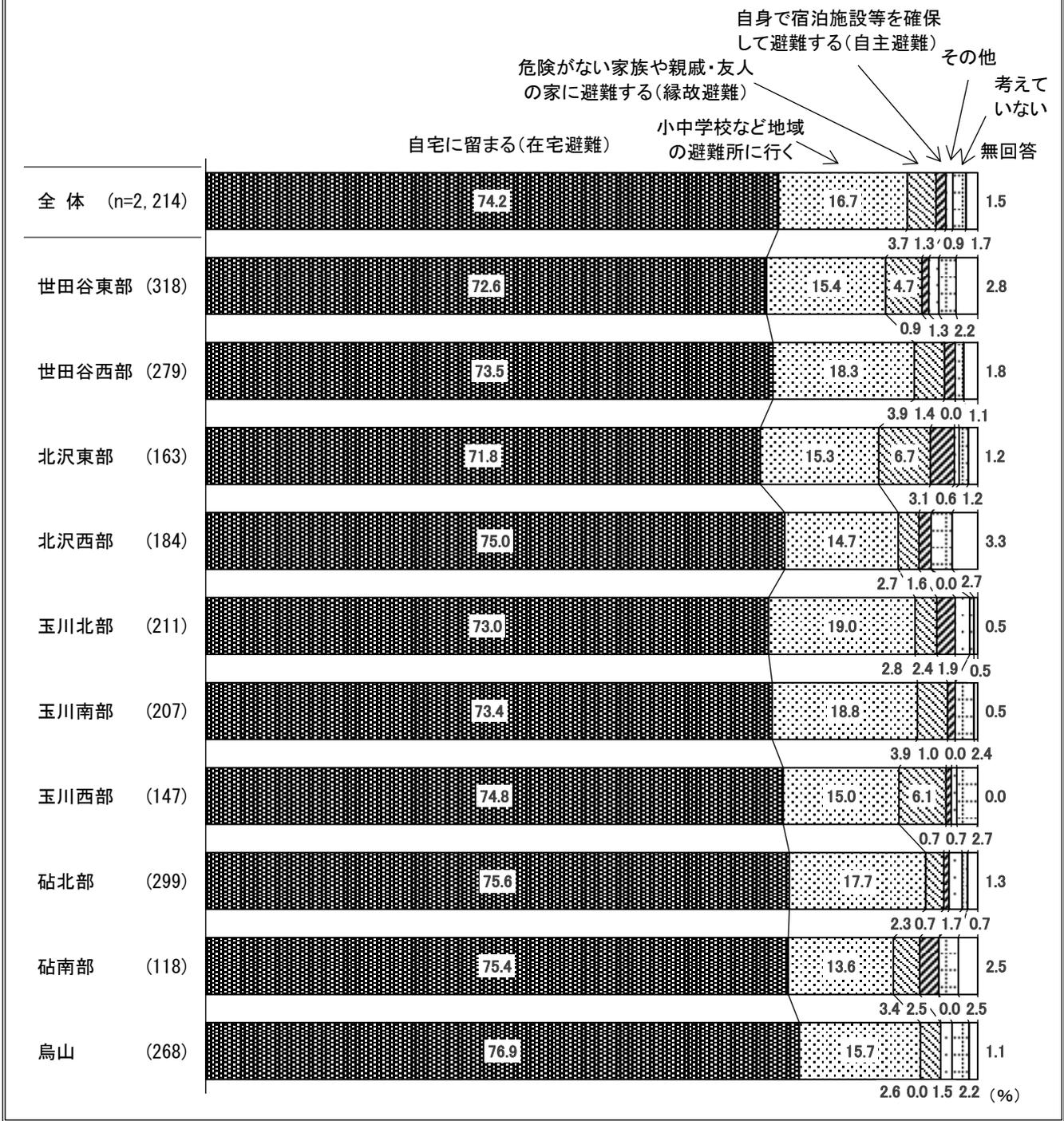
※首都直下地震では世田谷区の約7割の面積で震度6強が観測されると想定されています。

図6-1-1



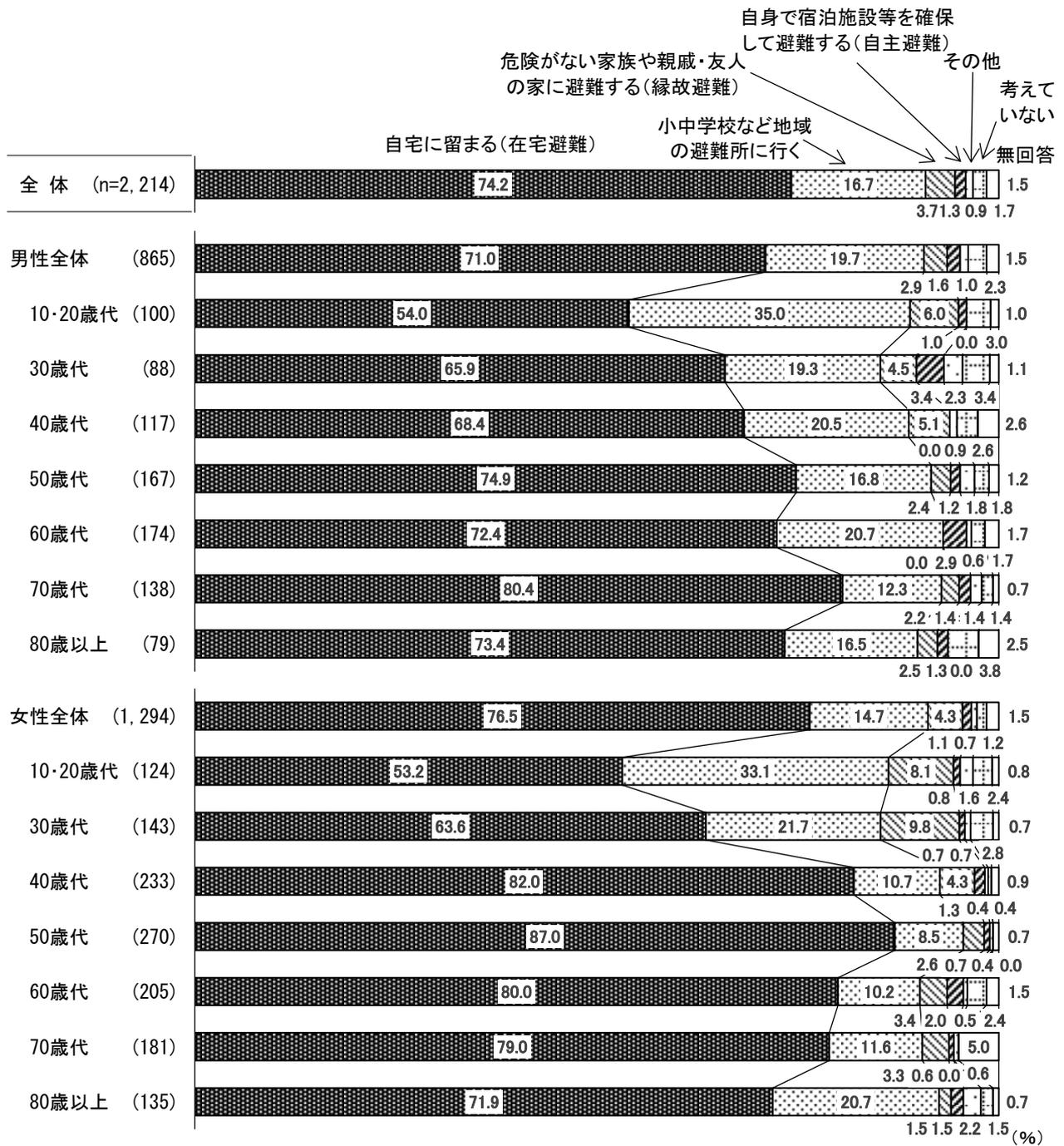
大地震の際に自宅が無事で危険がない場合の避難行動を聞いたところ、「自宅に留まる（在宅避難）」（74.2%）が7割半ばで最も高く、以下、「小中学校など地域の避難所に行く」（16.7%）、「危険がない家族や親戚・友人の家に避難する（縁故避難）」（3.7%）などと続く。（図6-1-1）

図6-1-2 大地震の際の避難行動（地域別）



地域別にみると、「自宅に留まる（在宅避難）」はすべての地域で7割台となっている。「小中学校など地域の避難所に行く」は玉川北部ではほぼ2割、玉川南部、世田谷西部、砧北部で2割近くとなっている。（図6-1-2）

図6-1-3 大地震の際の避難行動（性・年齢別）



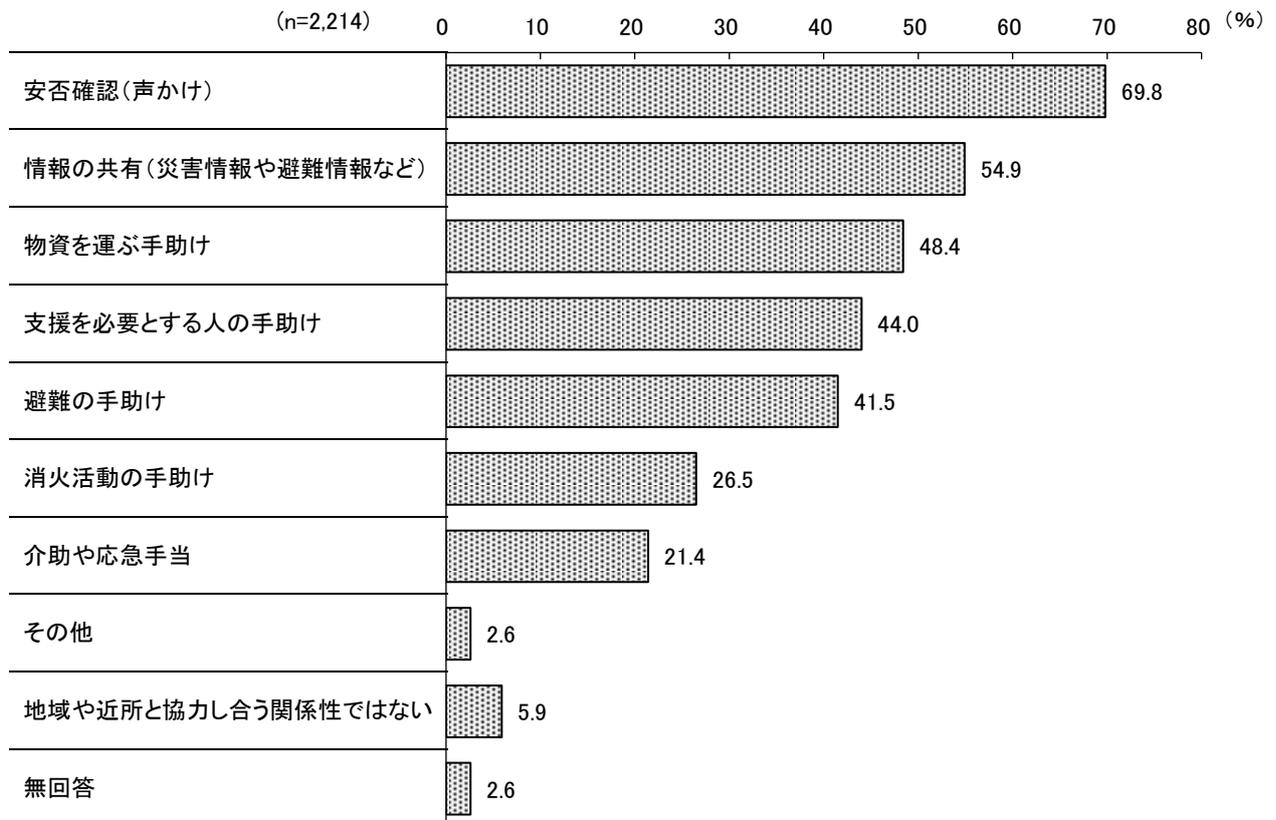
性・年齢別にみると、「自宅に留まる（在宅避難）」は女性の50歳代で9割近く、女性の40歳代で8割を超え、男性の70歳代、女性の60歳代で8割、女性の70歳代でほぼ8割となっている。「小中学校など地域の避難所に行く」は男性の10・20歳代で3割半ば、女性の10・20歳代で3割を超えている。（図6-1-3）

(2) 災害時にできる住民同士の助け合い

◎「安否確認（声かけ）」が7割

問19 あなたは、災害時に地域や近所の住民同士でどのような手助けができると思いますか。自分ができること、やりたいと思うことをお答えください。(〇はいくつでも)

図6-2-1



災害時に住民同士でどのような手助けができるか聞いたところ、「安否確認（声かけ）」（69.8%）が7割で最も高く、以下、「情報の共有（災害情報や避難情報など）」（54.9%）、「物資を運ぶ手助け」（48.4%）、「支援を必要とする人の手助け」（44.0%）、「避難の手助け」（41.5%）などと続く。（図6-2-1）

表 6-2-1 災害時にできる住民同士の助け合い（地域別）

		(%)										
		n	安否確認（声かけ）	情報の共有（災害情報や避難情報など）	物資を運ぶ手助け	支援を必要とする人の手助け	避難の手助け	消火活動の手助け	介助や応急手当	その他	地域や近所と協力し合う関係性ではない	無回答
全体		2,214	69.8	54.9	48.4	44.0	41.5	26.5	21.4	2.6	5.9	2.6
地域別	世田谷東部	318	67.3	52.8	51.6	43.7	43.7	25.2	18.9	1.6	4.7	2.5
	世田谷西部	279	70.6	52.3	44.1	43.7	40.5	27.2	21.9	1.8	6.1	3.9
	北沢東部	163	71.2	58.3	54.6	45.4	40.5	33.1	23.3	1.2	5.5	-
	北沢西部	184	74.5	59.2	46.7	39.7	41.8	27.7	21.7	2.2	4.9	5.4
	玉川北部	211	73.9	60.2	46.4	49.8	43.6	25.1	23.7	6.6	5.2	2.4
	玉川南部	207	67.6	54.6	54.6	50.2	48.3	25.1	21.7	2.9	7.7	1.4
	玉川西部	147	71.4	57.8	45.6	48.3	42.2	26.5	20.4	2.0	2.0	4.8
	砧北部	299	70.2	51.5	45.8	42.5	37.8	24.7	21.7	2.7	6.0	1.7
	砧南部	118	66.9	55.1	49.2	36.4	35.6	25.4	21.2	1.7	9.3	2.5
	烏山	268	66.4	54.5	48.9	41.8	39.9	27.6	21.3	3.4	7.5	1.9

地域別にみると、「安否確認（声かけ）」は北沢西部で7割半ば、玉川北部、玉川西部、北沢東部で7割を超え、世田谷西部ではほぼ7割、砧北部で7割となっている。「情報の共有（災害情報や避難情報など）」は玉川北部で6割、北沢西部ではほぼ6割、北沢東部、玉川西部で6割近くとなっている。「物資を運ぶ手助け」は北沢東部、玉川南部で5割半ば、世田谷東部で5割を超え、「支援を必要とする人の手助け」は玉川南部、玉川北部で5割、玉川西部で5割近くとなっている。

(表 6-2-1)

表6-2-2 災害時にできる住民同士の助け合い（性・年齢別）

(%)

	n	安否確認（声かけ）	情報の共有（災害情報や避難情報など）	物資を運ぶ手助け	支援を必要とする人の手助け	避難の手助け	消火活動の手助け	介助や応急手当	その他	地域や近所と協力し合う関係性ではない	無回答	
全 体	2,214	69.8	54.9	48.4	44.0	41.5	26.5	21.4	2.6	5.9	2.6	
性・年齢別	男性全体	865	64.7	49.5	54.5	43.6	47.2	34.9	19.9	3.4	5.4	1.8
	10・20歳代	100	51.0	38.0	56.0	39.0	45.0	24.0	20.0	1.0	14.0	1.0
	30歳代	88	59.1	53.4	65.9	45.5	53.4	34.1	22.7	2.3	6.8	-
	40歳代	117	68.4	55.6	69.2	45.3	52.1	41.9	26.5	0.9	5.1	0.9
	50歳代	167	62.3	53.3	65.3	48.5	52.1	43.1	20.4	4.8	3.0	1.2
	60歳代	174	68.4	44.3	51.7	44.3	50.6	37.9	20.7	5.2	5.2	0.6
	70歳代	138	74.6	58.7	44.9	46.4	44.2	31.2	18.8	2.2	3.6	1.4
	80歳以上	79	63.3	39.2	19.0	27.8	24.1	21.5	6.3	6.3	2.5	10.1
	女性全体	1,294	73.6	59.2	45.4	45.3	38.3	21.3	22.6	2.2	6.0	2.9
	10・20歳代	124	63.7	57.3	63.7	40.3	46.0	16.9	25.8	-	7.3	1.6
	30歳代	143	63.6	60.8	50.3	47.6	40.6	25.9	23.1	2.8	9.8	0.7
	40歳代	233	76.8	66.5	59.7	53.2	48.5	31.3	32.6	0.4	5.6	0.9
	50歳代	270	77.0	63.0	58.1	51.5	45.9	25.6	28.5	2.2	5.2	0.7
	60歳代	205	75.6	61.5	43.4	48.8	38.0	22.4	19.5	1.5	4.4	2.0
70歳代	181	80.1	59.7	23.2	45.3	25.4	12.7	13.3	3.3	6.6	5.0	
80歳以上	135	68.1	35.6	6.7	16.3	14.1	3.7	8.1	5.9	5.2	13.3	

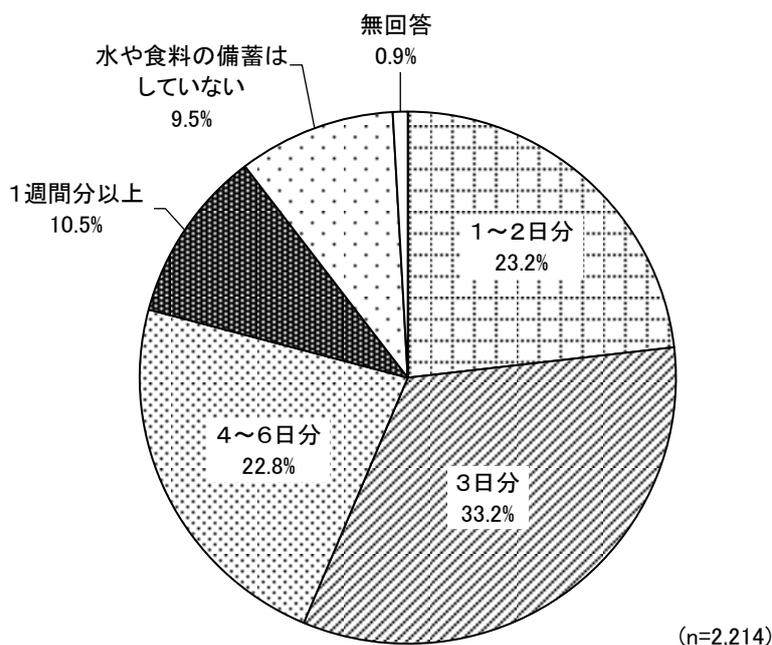
性・年齢別にみると、男性は「物資を運ぶ手助け」、「避難の手助け」、「消火活動の手助け」が女性より高く、女性は「安否確認（声かけ）」、「情報の共有（災害情報や避難情報など）」が男性より高い傾向にある。一方、「地域や近所と協力し合う関係性ではない」は男性の10・20歳代で1割半ば、女性の30歳代で1割となっている。（表6-2-2）

(3) 水や食料の備蓄について

◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割を超える

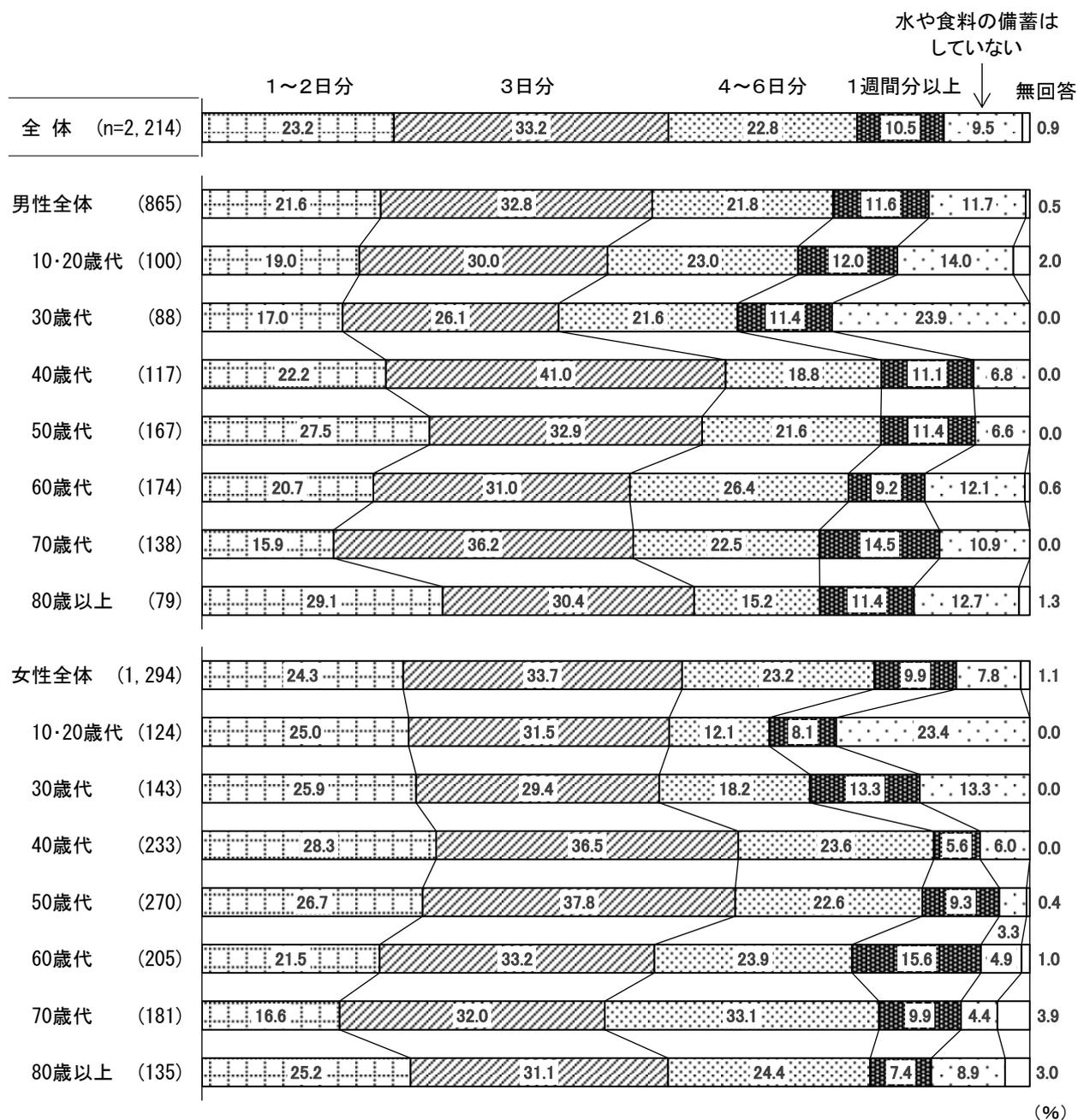
問20 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

図6-3-1



災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているか聞いたところ、「3日分」(33.2%)が3割を超えて最も高く、以下、「1~2日分」(23.2%)、「4~6日分」(22.8%)などと続く。「水や食料の備蓄はしていない」(9.5%)は1割となっている。(図6-3-1)

図6-3-2 水や食料の備蓄について（性・年齢別）

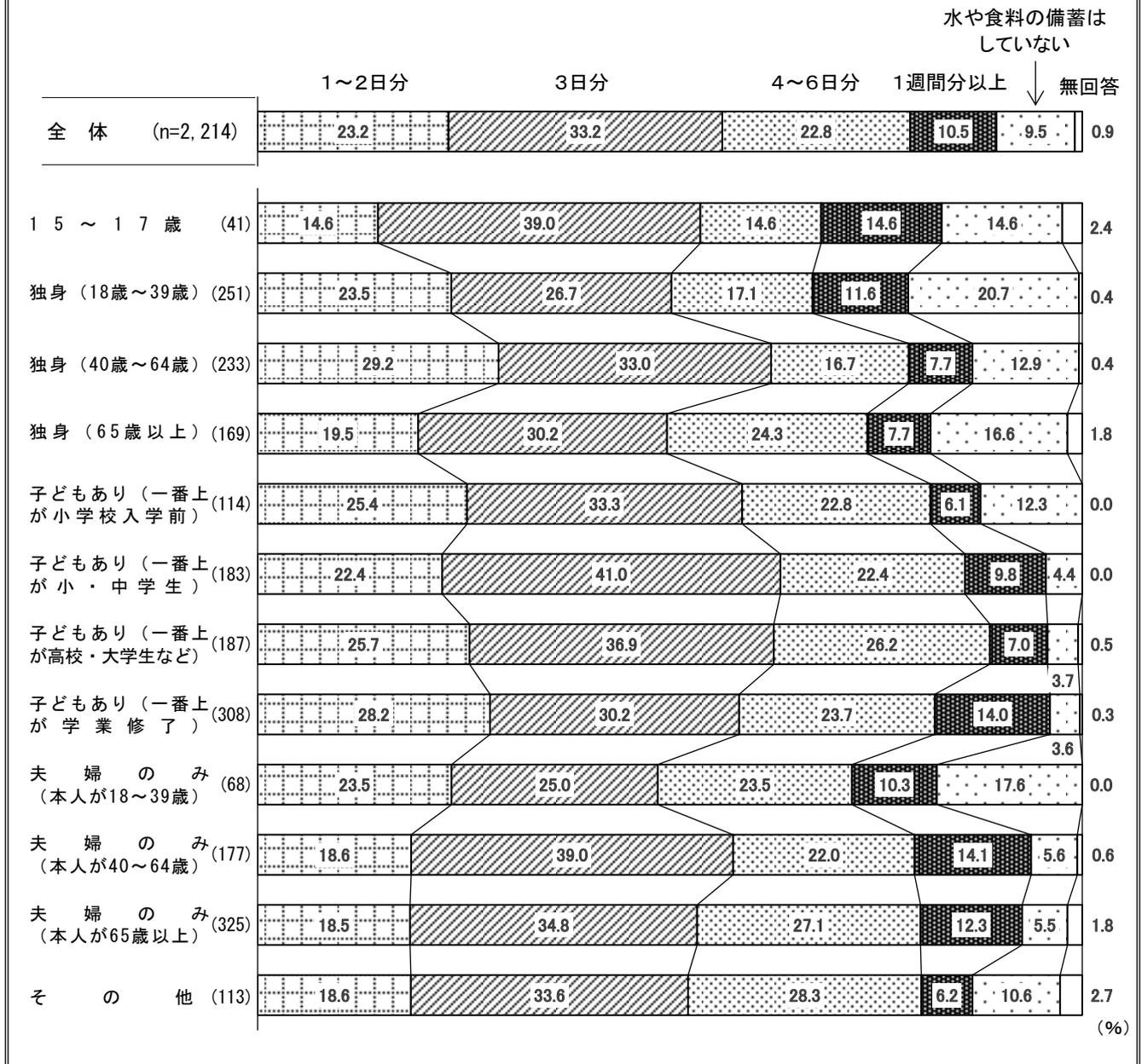


(%)

性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、すべての年代で5割を超えており、女性の70歳代で7割半ば、男性の70歳代、女性の60歳代で7割を超え、男性の40歳代でほぼ7割、女性の50歳代で7割となっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男性の30歳代、女性の10・20歳代で2割を超えている。

(図6-3-2)

図6-3-3 水や食料の備蓄について（ライフスタイル別）



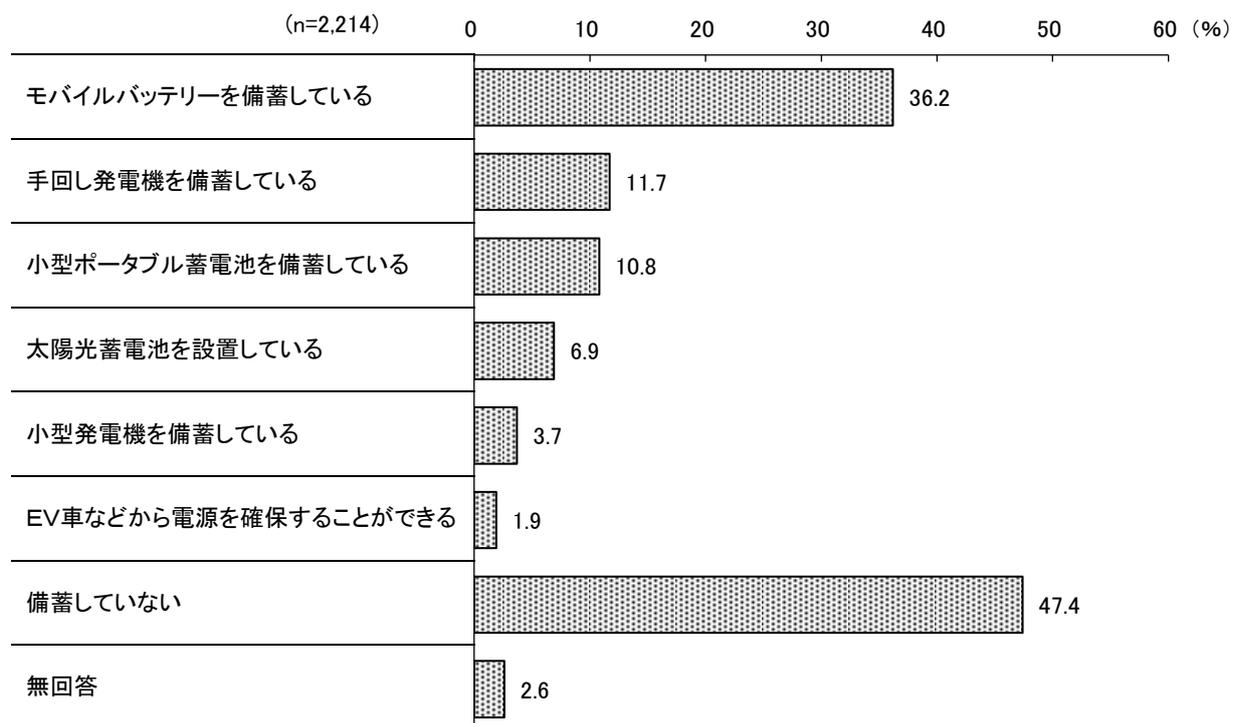
ライフスタイル別にみると、3日以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、夫婦のみ（本人が40～64歳）と夫婦のみ（本人が65歳以上）で7割半ば、子どもあり（一番上が小・中学生）で7割を超え、子どもあり（一番上が高校・大学生など）で7割となっている。「1～2日分」は独身（40歳～64歳）でほぼ3割、子どもあり（一番上が学業修了）で3割近く、「水や食料の備蓄はしていない」は独身（18歳～39歳）でほぼ2割、独身（65歳以上）と夫婦のみ（本人が18～39歳）で2割近くとなっている。（図6-3-3）

(4) 非常用電力の備蓄について

◎非常用電力は「備蓄していない」が5割近く

問21 あなたのご家庭では、災害に備えて非常用電力の備蓄をしていますか。(〇はいくつでも)

図6-4-1



災害時に備えた非常用電力を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄していない」(47.4%)が5割近くで最も高い。備蓄している中では、「モバイルバッテリーを備蓄している」(36.2%)が3割半ばで最も高く、以下、「手回し発電機を備蓄している」(11.7%)、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」(10.8%)などと続く。(図6-4-1)

表6-4-1 非常用電力の備蓄について（性・年齢別）

		(%)								
		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	EV車などから電源を確保することができる	備蓄していない	無回答
全体		2,214	36.2	11.7	10.8	6.9	3.7	1.9	47.4	2.6
性・年齢別	男性全体	865	34.1	8.7	10.8	5.4	2.8	1.5	52.5	1.6
	10・20歳代	100	51.0	10.0	15.0	5.0	4.0	2.0	32.0	4.0
	30歳代	88	42.0	15.9	9.1	4.5	4.5	-	47.7	-
	40歳代	117	47.0	11.1	20.5	6.0	3.4	1.7	39.3	-
	50歳代	167	41.3	10.8	13.8	7.2	0.6	2.4	44.9	1.8
	60歳代	174	32.2	5.7	6.9	4.6	3.4	1.7	55.7	1.1
	70歳代	138	17.4	5.8	4.3	5.8	1.4	1.4	71.0	0.7
	80歳以上	79	3.8	2.5	6.3	3.8	3.8	-	79.7	3.8
	女性全体	1,294	37.7	14.1	11.1	7.9	4.6	2.2	43.7	3.1
	10・20歳代	124	43.5	18.5	4.8	9.7	6.5	3.2	42.7	3.2
	30歳代	143	54.5	16.1	12.6	5.6	4.9	1.4	32.9	-
	40歳代	233	50.6	17.2	12.4	8.2	3.9	3.0	32.2	0.9
	50歳代	270	45.2	18.5	14.8	11.1	4.1	2.2	35.6	1.5
	60歳代	205	34.1	10.2	14.1	5.4	4.9	2.0	49.8	2.4
70歳代	181	19.9	9.4	7.7	8.3	3.3	3.3	57.5	6.1	
80歳以上	135	7.4	5.9	5.2	5.2	5.9	-	63.7	10.4	

性・年齢別にみると、「備蓄していない」は若年層より高年層の方が高く、男性の80歳以上で8割、男性の70歳代で7割を超え、女性の80歳以上で6割を超えている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は若年層が高く、女性の30歳代で5割半ば、男性の10・20歳代で5割を超え、女性の40歳代ではほぼ5割となっている。「手回し発電機を備蓄している」は女性の10・20歳代と40歳代、50歳代で2割近く、男性の30歳代、女性の30歳代で1割半ばとなっている。（表6-4-1）

表6-4-2 非常用電力の備蓄について（ライフスタイル別）

		(%)								
		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	EV車などから電源を確保することができる	備蓄していない	無回答
全体		2,214	36.2	11.7	10.8	6.9	3.7	1.9	47.4	2.6
ライフスタイル別	15～17歳	41	46.3	19.5	4.9	14.6	7.3	4.9	39.0	4.9
	独身(18歳～39歳)	251	49.4	16.3	9.6	5.6	4.8	1.6	37.8	2.0
	独身(40歳～64歳)	233	37.8	11.2	5.6	3.4	1.7	0.4	50.2	0.9
	独身(65歳以上)	169	11.8	5.3	6.5	4.1	2.4	-	69.8	5.3
	子どもあり(一番上が小学校入学前)	114	52.6	7.0	16.7	7.0	4.4	2.6	38.6	0.9
	子どもあり(一番上が小・中学生)	183	51.4	16.9	18.6	8.2	2.2	1.6	30.1	-
	子どもあり(一番上が高校・大学生など)	187	46.0	17.6	19.3	13.4	4.8	4.8	33.2	1.1
	子どもあり(一番上が学業修了)	308	41.2	11.4	12.0	8.4	6.2	1.3	43.2	1.3
	夫婦のみ(本人が18～39歳)	68	47.1	13.2	11.8	4.4	7.4	1.5	36.8	1.5
	夫婦のみ(本人が40～64歳)	177	36.2	9.6	13.6	4.5	1.1	3.4	48.6	2.8
	夫婦のみ(本人が65歳以上)	325	17.2	8.9	6.2	6.5	2.5	2.5	64.9	4.0
	その他	113	19.5	9.7	6.2	6.2	5.3	0.9	61.1	4.4

ライフスタイル別にみると、「備蓄していない」は独身（65歳以上）で7割、夫婦のみ（本人が65歳以上）で6割半ば、その他で6割を超えている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は子どもあり（一番上が小学校入学前）と子どもあり（一番上が小・中学生）で5割を超え、独身（18歳～39歳）でほぼ5割、「手回し発電機を備蓄している」は15～17歳で2割、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」は子どもあり（一番上が高校・大学生など）でほぼ2割となっている。

(表6-4-2)

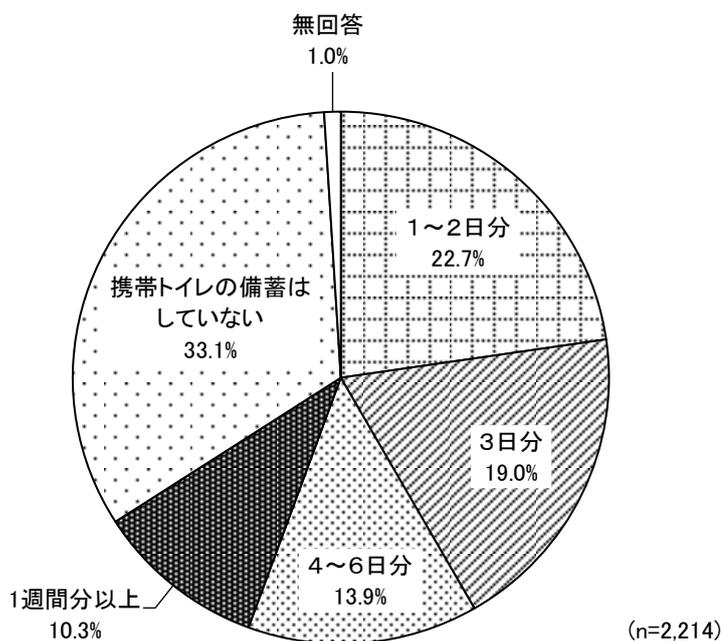
(5) 携帯トイレの備蓄について

◎ 「携帯トイレの備蓄はしていない」が3割を超える

問22 あなたのご家庭では、携帯トイレを何日分備蓄していますか。(○は1つ)

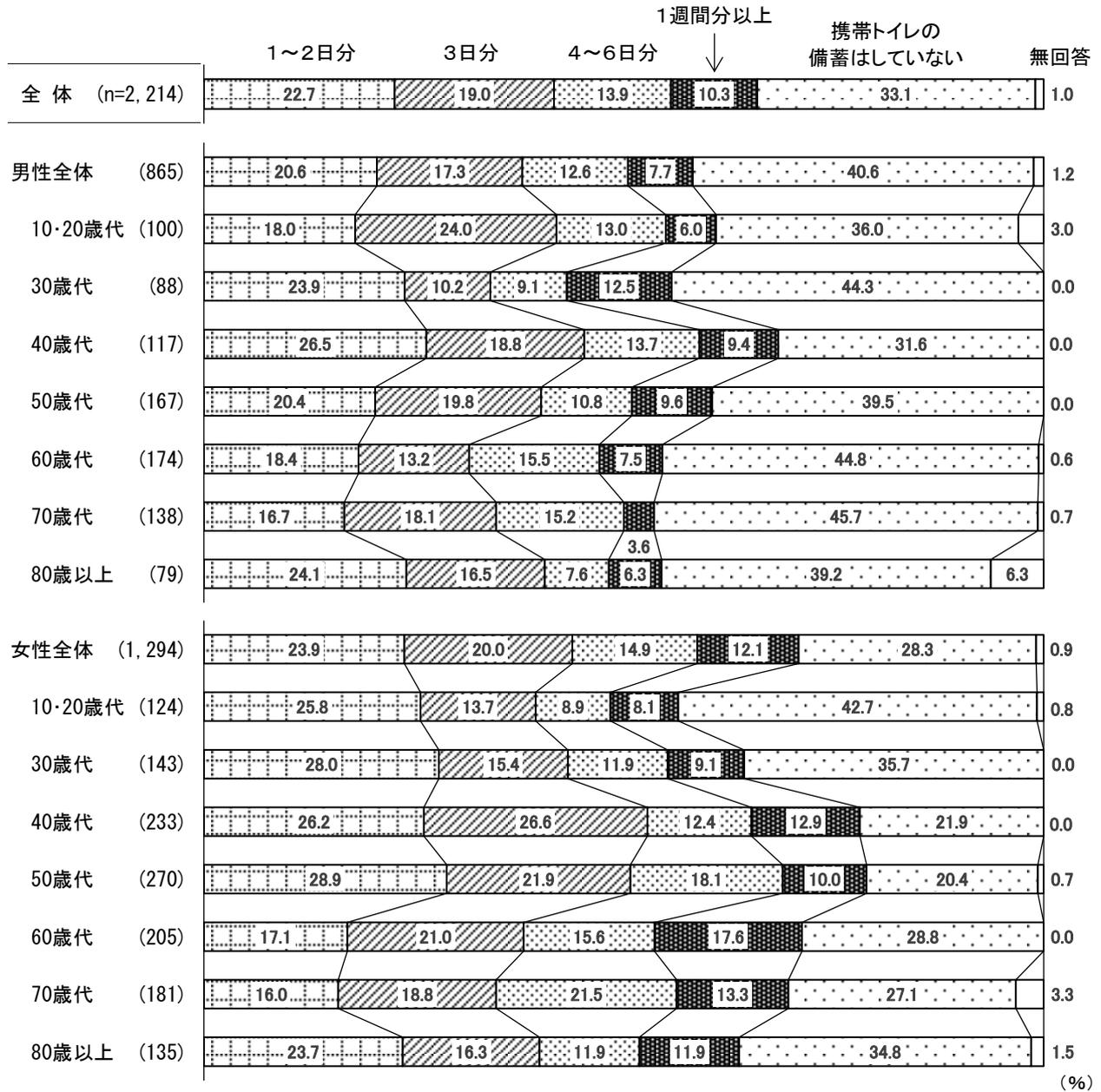
※備蓄の目安：1人1日約5回×家族分

図6-5-1



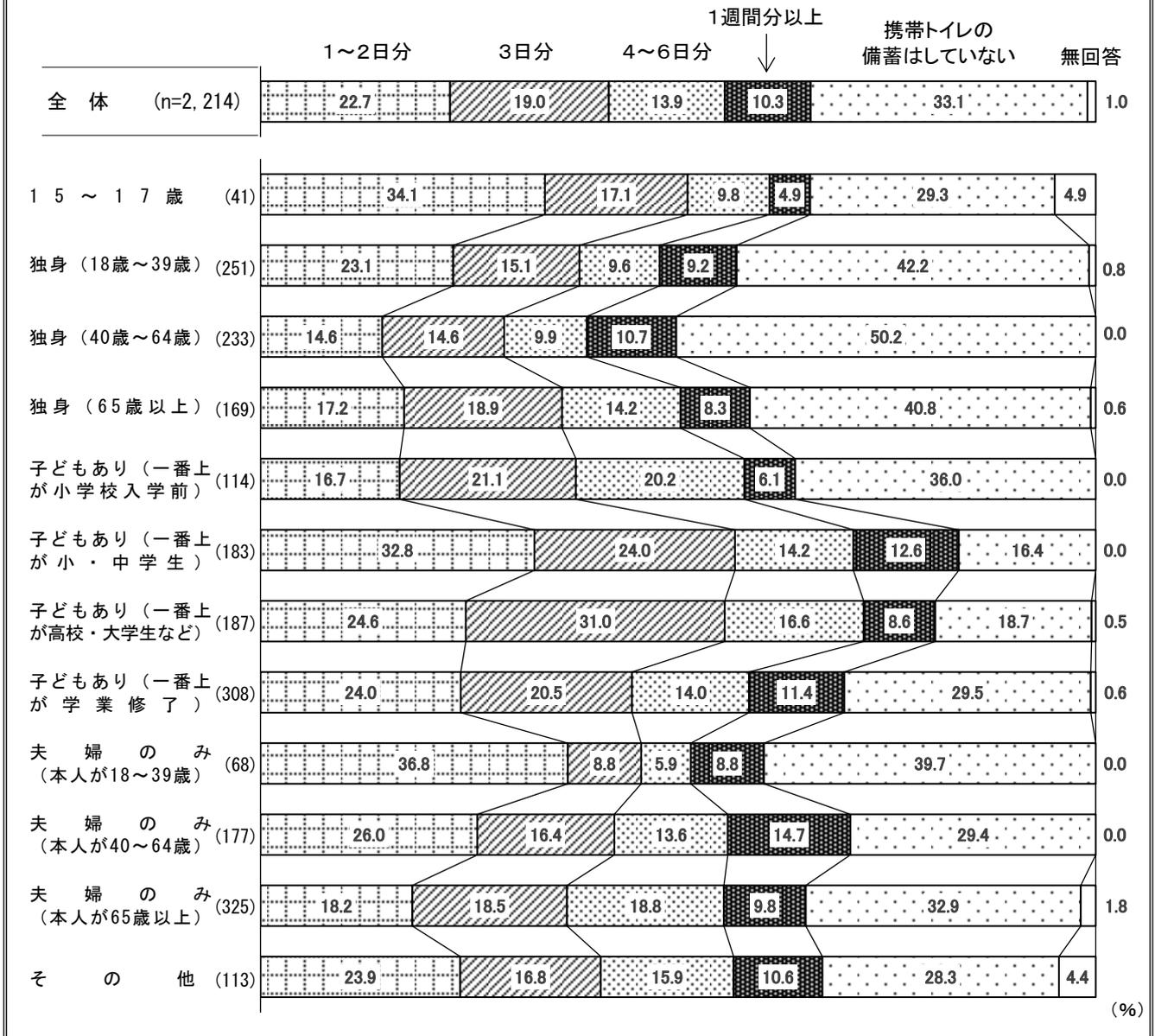
災害に備えて携帯トイレを何日分備蓄しているか聞いたところ、「携帯トイレの備蓄はしていない」(33.1%)が3割を超えて最も高い。備蓄している中では、「1～2日分」(22.7%)、「3日分」(19.0%)、「4～6日分」(13.9%)、「1週間分以上」(10.3%)と続く。(図6-5-1)

図 6-5-2 携帯トイレの備蓄について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の携帯トイレを備蓄している割合は、女性の60歳代で5割半ば、女性の40歳代と70歳代で5割を超え、女性の50歳代で5割となっている。「携帯トイレの備蓄はしていない」は男性の30歳代と60歳代、70歳代で4割半ば、女性の10・20歳代で4割を超えている。（図6-5-2）

図6-5-3 携帯トイレの備蓄について（ライフスタイル別）



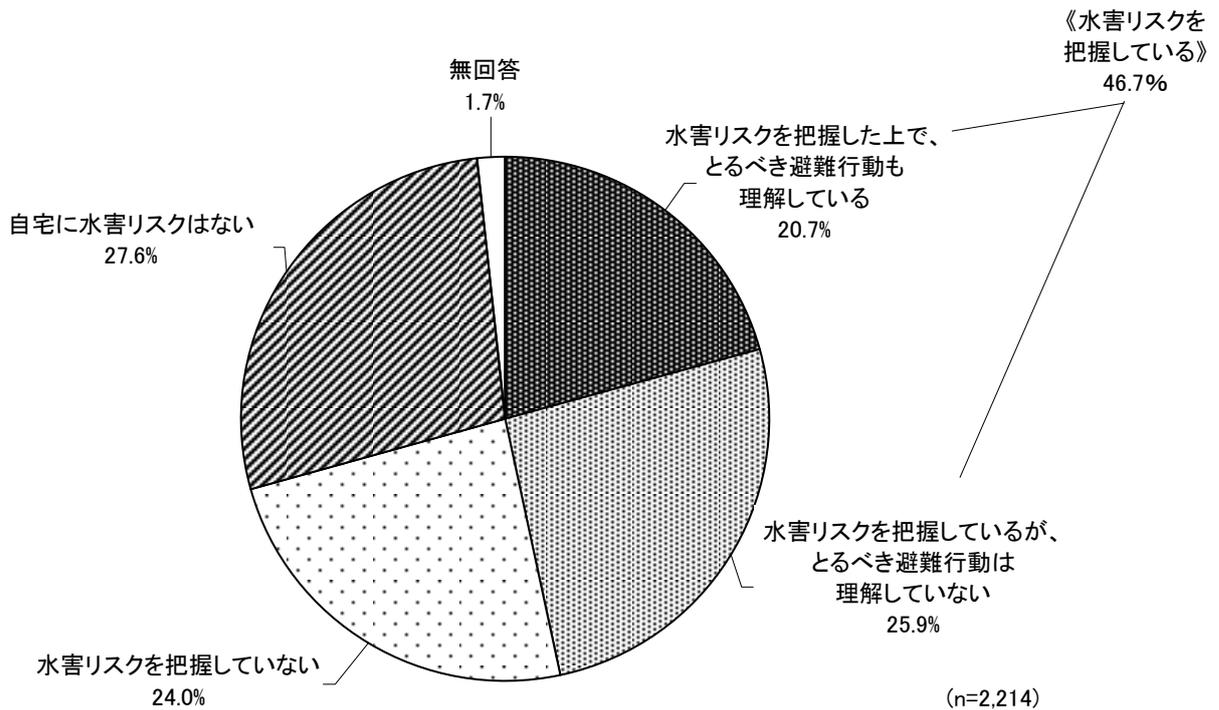
ライフスタイル別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の携帯トイレを備蓄している割合は、子どもあり（一番上が高校・大学生など）で5割半ば、子どもあり（一番上が小・中学生）でほぼ5割、子どもあり（一番上が小学校入学前）と夫婦のみ（本人が65歳以上）で5割近くとなっている。「1～2日分」は夫婦のみ（本人が18～39歳）で4割近く、15～17歳で3割半ば、「携帯トイレの備蓄はしていない」は独身（40歳～64歳）で5割、独身（18歳～39歳）で4割を超え、独身（65歳以上）でほぼ4割、夫婦のみ（本人が18～39歳）で4割となっている。（図6-5-3）

(6) 自宅の水害リスクの把握度

◎ 《水害リスクを把握している》が5割近く

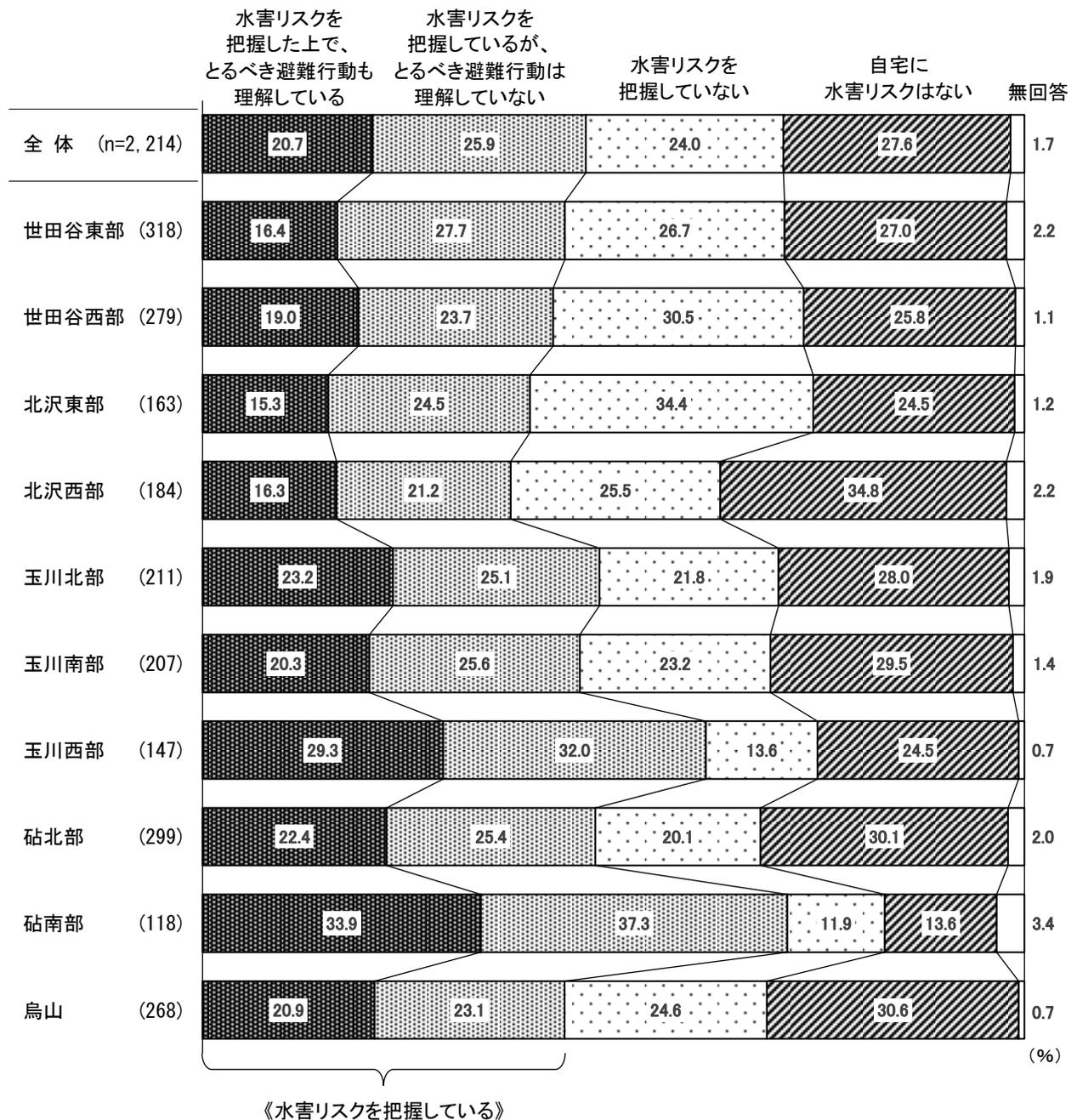
問23 あなたは、ハザードマップ等により、ご自宅の水害リスクを把握していますか。
(○は1つ)

図6-6-1



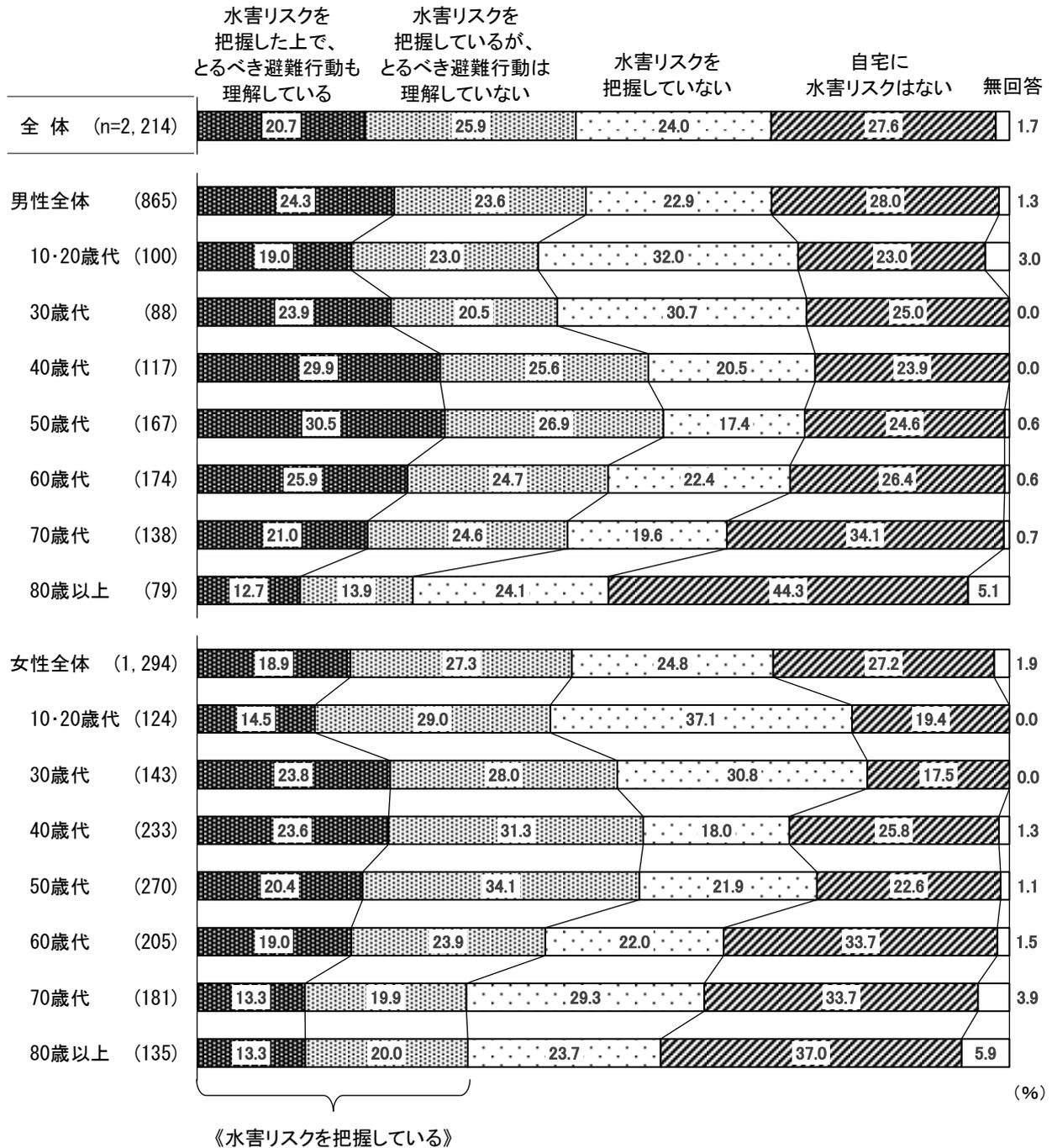
自宅の水害リスクを把握しているか聞いたところ、「自宅に水害リスクはない」(27.6%)が3割近くで最も高い。「水害リスクを把握した上で、とるべき避難行動も理解している」(20.7%)がほぼ2割、「水害リスクを把握しているが、とるべき避難行動は理解していない」(25.9%)が2割半ばで、両者を合わせた《水害リスクを把握している》が5割近くとなっている。「水害リスクを把握していない」(24.0%)は2割半ばとなっている。(図6-6-1)

図6-6-2 自宅の水害リスクの把握度（地域別）



地域別にみると、《水害リスクを把握している》は砧南部で7割を超え、玉川西部で6割を超えている。「水害リスクを把握した上で、とるべき避難行動も理解している」は砧南部で3割を超え、玉川西部ではほぼ3割となっている一方で、「水害リスクを把握しているが、とるべき避難行動は理解していない」は砧南部で4割近く、玉川西部で3割を超えている。「水害リスクを把握していない」は北沢東部で3割半ば、世田谷西部ではほぼ3割となっている。（図6-6-2）

図6-6-3 自宅の水害リスクの把握度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《水害リスクを把握している》は男性の40歳代～60歳代、女性の30歳代～50歳代で5割台となっている。「水害リスクを把握した上で、とるべき避難行動も理解している」は男性の50歳代でほぼ3割、男性の40歳代で3割、「水害リスクを把握しているが、とるべき避難行動は理解していない」は女性の50歳代で3割半ば、女性の40歳代で3割を超えている。「水害リスクを把握していない」は男女とも30歳代以下で3割台となっている。（図6-6-3）